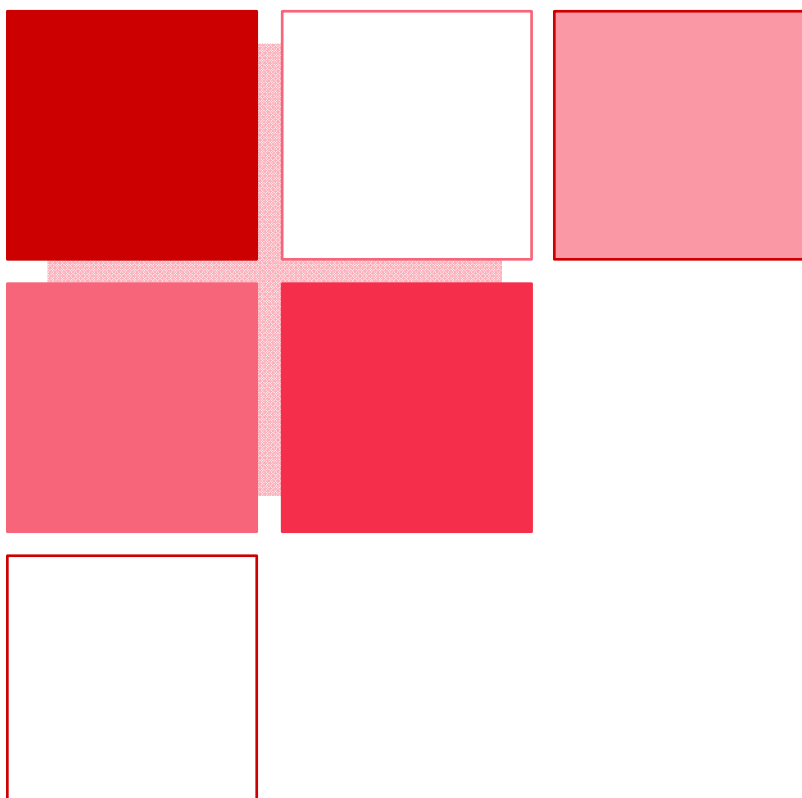


Quality for You

確かなクオリティを、明日へ。世界へ。



三菱UFJフィナンシャル・グループ

MUFG

リスク関連情報 補足説明資料

2013

2012年(平成24年)4月1日～2013年(平成25年)3月31日

1. トップリスク

主要なトップリスク	P.2
-----------	-----

2. 部門別リスク・アセット/リスク種別リスク・アセット

部門別リスク・アセット/リスク種別リスク・アセット	P.3
---------------------------	-----

3. 信用リスクに係る情報

(1)与信残高(セグメント別・科目別)	P.4
---------------------	-----

(2)信用リスク・アセット(バーゼルⅢ関連データ)	P.5
---------------------------	-----

(3)デリバティブ取引	P.6
-------------	-----

4. 流動性リスクに係る情報

(1)主な流動資産の保有状況	P.7
----------------	-----

(2)主要な調達手段と期間構成	P.8
-----------------	-----

※ 上記以外のリスク関連情報を含むリスク関連情報リンク一覧は以下のURLをご参照ください。

<http://www.mufg.jp/ir/risk/>

1. トップリスク

【主要なトップリスク】

(平成25年7月31日時点)

リスク事象	リスクシナリオ*(例)	MUFGへの影響(例)
長期金利上昇による損失拡大のリスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 本邦財政運営への信認低下、緊急経済対策に伴う国債増発、政府の日銀への過度な介入懸念等から日本国債金利が急上昇。 ▶ 米国で量的緩和縮小が早期実現し、米国債金利が急上昇。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 内外金利が上昇した場合、保有する大量の国債に減損又は評価損が発生し、業績に悪影響を与えるとともに、自己資本比率の低下を招くおそれがある。
政策投資株式の損失拡大のリスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 世界的なリスク資産圧縮の加速、その他の全般的な経済動向や大口保有先の業績悪化等により、株価が下落し、政策株の評価損や減損が拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 株価が下落した場合には、保有株式に減損又は評価損が発生し、業績に悪影響を与えるとともに、自己資本比率の低下を招くおそれがある。
不公正取引やマネーロンダリング/金融犯罪等に関するリスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 不公正取引やマネーロンダリング/金融犯罪等の規制違反により、業務停止命令等の処分や課徴金等の制裁金の支払が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 評判が悪化し、グループ会社の業績に悪影響を与えるおそれがある。 ▶ 業務停止命令等の処分や課徴金等の制裁金の支払が発生し、事業継続が困難となったり、業績が下振れするおそれがある。
欧州周縁国に起因する与信費用増加のリスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 財政再建が進まず、世界経済に悪影響を及ぼし、その結果与信費用が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 欧州周縁国に起因する与信費用の増加に伴い、業績が下振れするおそれがある。
情報紛失・漏洩による損失発生リスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 管理態勢の不備やサイバー攻撃等により、顧客情報が大量漏洩。 ▶ 情報セキュリティに関する事故発生時の対応不備。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報セキュリティの取組みが弱いとの風評が発生し、グループ会社の業績に悪影響を与えるおそれがある。

*リスクシナリオ: 当社リスク管理委員会で議論された一例です。一般的に起こり得る事象で、当社固有でない事象も含まれます。

【トップリスク定義】

- ▶ 今後約1年間で最も注意すべきと当社が認識しているリスク。リスクが顕在化した場合の影響が大きく、蓋然性が高いリスク(蓋然性が高まる虞がある場合も含む)。
- ▶ 定量的に計測可能なリスクのみならず、将来において戦略や風評等を通じ経営に重要な影響を及ぼしうるリスクも含む。

(注) 上記は当社が認識しているリスクの一部を記載したものであり、これら以外のリスクにより経営に重大な悪影響が生ずる可能性があることにご留意下さい。当社及び当社グループのリスクについてのより詳細な情報については、当社が提出した有価証券報告書、四半期報告書、Form20-F、Form6-K等の開示文書をご参照下さい。

2. 部門別リスク・アセット／リスク種別リスク・アセット

- 25年3月末時点のリスク・アセット(バーゼルⅢベース)総額は約88兆円。
- 部門別では法人部門(約33兆円)および国際部門(約24兆円)で全体の65%を占める。
- リスク種別では信用リスクが約79兆円と全体の約9割を占める状況。

部門別リスク・アセット(バーゼルⅢベース)

(単位:兆円)	25年3月末
リテール	12.4
法人	33.1
国際	24.3
受託財産	0.8
市場	10.3
その他	7.0
リスク・アセット合計	88.0

(注) 上記計数は、財務上のリスク・アセット合計を部門別に切り分けた管理計数です。
一方、経営管理指標として用いる部門別のリスク・アセットは、信用リスクのみ(市場部門のみマーケットリスクを含む)であり、上記計数とは一致しません。

リスク種別リスク・アセット(バーゼルⅢベース)

(単位:兆円)	25年3月末
信用リスク	79.1
マーケットリスク	2.5
オペレーショナルリスク	5.3
フロア調整額	0.4
経過措置加算額	0.7
リスク・アセット合計	88.0

3. 信用リスクに係る情報

(1) 与信残高(セグメント別・科目別)

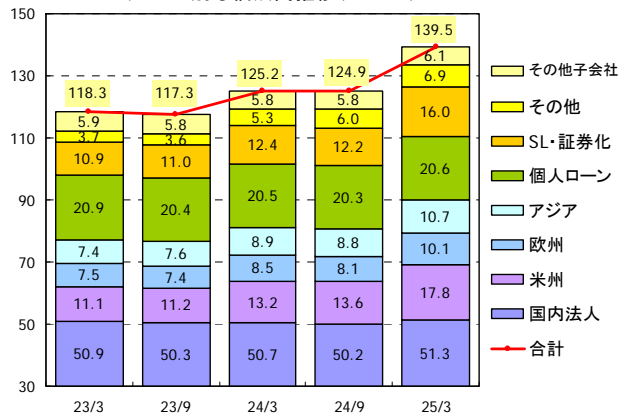
- 25年3月末の与信残高は139.5兆円。24年9月末比14.6兆円の増加。
- セグメント別にみると、国内法人向けが51.3兆円。海外法人向けが38.5兆円。
海外法人向けは、円安進行の影響もあり、米州・欧州・アジアの各地域で増加。
- 科目別では、貸出金が85.5兆円と全体の約6割を占めて最大。

与信残高

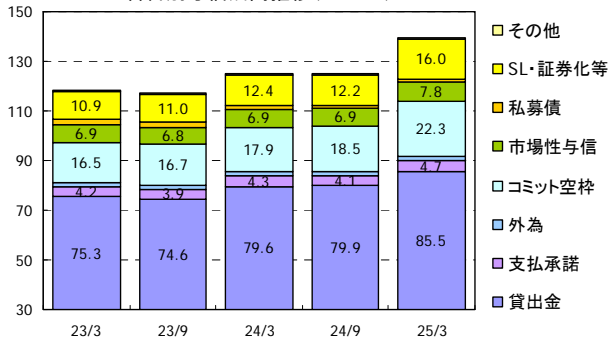
		(単位:兆円)	24/3	24/9	25/3	(年/月) 24/9比
MUFG連結合計			125.2	124.9	139.5	14.6
セグメント別	BTMU	①国内法人	50.7	50.2	51.3	1.1
		②海外法人	30.6	30.5	38.5	8.0
	MUB	米州	13.2	13.6	17.8	4.2
		欧州	8.5	8.1	10.1	2.0
		アジア	8.9	8.8	10.7	1.9
	UTB	③その他	38.2	38.5	43.5	5.1
		個人ローン	20.5	20.3	20.6	0.4
		SL・証券化等	12.4	12.2	16.0	3.8
		その他	5.3	6.0	6.9	0.9
	その他子会社			5.8	5.8	6.1

		(単位:兆円)	24/3	24/9	25/3	(年/月) 24/9比
科目別	貸出金		79.6	79.9	85.5	5.6
	支払承諾		4.3	4.1	4.7	0.6
	外為		1.6	1.4	1.5	0.1
	コミットメント(空枠)		17.9	18.5	22.3	3.8
	市場性と信		6.9	6.9	7.8	0.8
	私募債		1.8	1.5	1.2	▲0.3
	SL・証券化等		12.4	12.2	16.0	3.8
	その他		0.6	0.3	0.5	0.2

(兆円) セグメント別与信残高推移(23/3~)



(兆円) 科目別与信残高推移(23/3~)



(注) 1. 図表中の略称はそれぞれ下記を表しています。

BTMU…三菱東京UFJ銀行、MUTB…三菱UFJ信託銀行、UB…ユニオンバンクコーポレーション、
SL…特定貸付債権(Specialized Lending)

2. 内部管理用の計数であり、財務諸表の計数とは一致しません。

3. セグメント別においてUBの法人向けエクスポージャーは米州に含めています。

4. 科目別において三菱UFJ証券ホールディングスのエクスポージャーは市場性と信に含めています。

3. 信用リスクに係る情報

(2)信用リスク・アセット(バーゼルⅢ関連データ)

▶ 25年3月末の信用リスク・アセット(信用RWA)は79.1兆円。
24年9月末比14.2兆円の増加。

<主な信用RWA増減要因>

増加要因:バーゼルⅢ移行の影響 +9.2兆円(CVAリスク相当額の計上、大規模金融機関等向けエクスポージャーのRWA算出式における相関係数引上げ等)

円安・株価上昇の影響 +4.2兆円(USDドル:9月末77.60円→3月末94.05円
TOPIX:9月末737.42→3月末1,034.71)

減少要因:パラメータ要因 ▲0.7兆円

(単位:兆円)	信用RWA				EAD (Exposure at Default)				リスクウェイト				
	24/3	24/9	25/3	(年/月) 24/9比	24/3	24/9	25/3	(年/月) 24/9比	24/3	24/9	25/3	(年/月) 24/9比	
信用リスク 合計	71.7	64.9	79.1	14.2	228.1	226.0	250.4	24.3	31.4%	28.7%	31.6%	2.9%	
内部 格付 手法	事業法人等	36.6	31.9	36.6	4.7	165.1	164.7	173.6	9.0	22.2%	19.4%	21.1%	1.7%
	事業法人	30.7	27.1	30.4	3.3	64.3	63.2	69.1	5.9	47.8%	42.9%	44.0%	1.1%
	格付1~3	6.0	5.1	6.4	1.2	23.4	22.8	26.4	3.5	25.7%	22.6%	24.2%	1.7%
	格付4~9	18.3	15.8	17.5	1.7	34.6	34.0	35.9	1.9	52.9%	46.5%	48.9%	2.3%
	格付10~11	5.7	5.3	5.6	0.3	4.5	4.6	5.0	0.4	124.7%	115.1%	111.9%	▲3.2%
	格付12~15	0.7	0.8	0.8	▲0.0	1.8	1.8	1.8	▲0.0	40.9%	46.6%	46.3%	▲0.3%
	ソブリン	0.9	0.6	0.7	0.1	88.9	90.4	91.9	1.5	1.0%	0.7%	0.8%	0.1%
	格付1~3	0.6	0.4	0.5	0.1	88.3	89.8	91.3	1.5	0.7%	0.5%	0.5%	0.1%
	格付4~9	0.2	0.2	0.2	0.0	0.4	0.4	0.4	0.1	43.2%	41.5%	47.0%	5.5%
	格付10~11	0.1	0.1	0.0	▲0.0	0.2	0.2	0.1	▲0.0	46.2%	28.8%	30.2%	1.5%
	格付12~15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	31.5%	35.8%	22.2%	▲13.6%
	金融機関	2.1	1.7	2.5	0.8	7.9	7.0	7.9	0.9	27.2%	24.5%	31.5%	7.0%
	格付1~3	1.2	0.8	1.2	0.4	5.8	4.3	4.8	0.5	20.6%	18.6%	24.2%	5.7%
	格付4~9	0.7	0.7	1.1	0.3	2.0	2.6	3.0	0.4	35.9%	28.7%	36.7%	8.0%
	格付10~11	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	149.8%	127.3%	158.8%	31.6%
	格付12~15	0.0	0.0	0.0	▲0.0	0.0	0.0	0.0	▲0.0	15.1%	26.4%	22.5%	▲3.9%
SL(特定貸付債権)	2.8	2.5	3.0	0.6	4.0	4.0	4.7	0.7	71.7%	61.4%	64.2%	2.8%	
リテール	8.1	7.5	6.8	▲0.7	22.7	22.0	21.7	▲0.3	35.5%	34.3%	31.5%	▲2.8%	
株式・みなし計算	8.0	6.9	10.6	3.7	5.9	5.8	8.4	2.6	134.1%	119.0%	126.1%	7.0%	
その他	7.9	6.7	11.6	4.9	15.6	14.5	24.8	10.3	50.7%	46.2%	46.7%	0.5%	
段階的適用部分	5.3	5.6	6.6	1.0	8.1	8.3	9.7	1.4	64.7%	68.0%	68.7%	0.7%	
適用除外部分	5.9	6.2	6.8	0.7	10.6	10.8	12.2	1.4	55.5%	57.5%	56.1%	▲1.3%	

(注) リスク・アセット算出に対応したPD/LGD/EADといった各種パラメータは定期的に推計を実施し、年1回以上の頻度でバック・テスト、外部データとの比較等により検証をしています。

3. 信用リスクに係る情報

(3) デリバティブ取引

- ▶ 25年3月末のデリバティブ取引に係るエクスポージャーは約9.7兆円。
うち、中央清算機関を通じて決済する取引に係るエクスポージャーは約2.8兆円。

デリバティブ取引に係るエクスポージャー

(単位: 億円)	24/3	24/9	25/3	(年/月)	
				24/9比	24/3比
デリバティブ取引合計	63,560	63,998	96,891	32,893	33,331
相対決済	63,560	63,998	68,602	4,604	5,042
中央清算機関決済	-	-	28,289	28,289	28,289

- (注) 1. 信用リスク・アセット算出におけるエクスポージャーを記載しています。
 2. 相対決済によるエクスポージャーは信用リスク削減効果勘案前の残高となっています。
 3. 中央清算機関での決済によるエクスポージャーはトレード・エクスポージャーを記載しています。
 4. 25年3月より中央清算機関での決済によるエクスポージャーを表示しています。

4. 流動性リスクに係る情報

(1) 主な流動資産の保有状況

- ▶ 三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)は、資金調達手段の一つとして活用できる換金性の高い流動資産を多く保有。
- ▶ MUFGが保有する流動資産の構成は、日本国債が高い割合を占める。

主な流動資産の保有状況(主要業態別)

平成25年3月末時点

(単位: 億円)	三菱UFJ			
	フィナンシャル・グループ	三菱東京UFJ銀行	三菱UFJ信託銀行	三菱UFJ証券ホールディングス
現預金	114,580	94,209	16,878	7,199
国内債券	578,786	460,686	71,891	47,293
国債	528,753	418,525	68,046	43,266
地方債	3,395	2,150	2	1,243
社債	46,637	40,011	3,843	2,784
外国債券	188,695	129,010	57,904	2,264
国内株式	44,151	31,482	7,888	5,468
外国株式	2,091	2,083	5	1
その他	60,653	41,882	8,093	10,642
小計	988,957	759,353	162,658	72,867
担保提供分	▲ 290,300	▲ 176,020	▲ 90,941	▲ 47,536
合計	698,656	583,333	71,718	25,331

- (注) 1. 有価証券は、その他有価証券、満期保有目的有価証券、売買目的有価証券のうち、時価のあるものを計上しております。
2. 担保提供分は、借入金、売渡手形、為替決済等の取引の担保や先物取引証拠金等の代用として差し入れている有価証券の金額です。
3. 上記流動資産は、バーゼルⅢ流動性規制における適格流動資産とは一致するものではありません。
4. 主要業態の合計と三菱UFJフィナンシャル・グループの数字は、グループ内取引等により、一致するものではありません。

[規制対応状況について]

- ▶ 27年よりバーゼルⅢの流動性規制として、流動性カバレッジ比率(Liquidity Coverage Ratio: LCR)が導入される予定。
同規制では、ストレスシナリオ発生時における1ヶ月間の資金流出をカバーする高品質の流動資産(High Quality Liquid Assets: HQLA)の保有が一定度求められる。
- ▶ MUFGが保有する日本国債等の高品質の流動資産残高は、同規制で求められる水準を試算では大幅に超えており、潤沢な流動性準備を保有しているといえる。

4. 流動性リスクに係る情報

(2) 主要な調達手段と期間構成

- 三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)における主な資金調達手段は、普通預金、譲渡性預金や定期預金等の顧客預金。
 - ✓ 法人顧客や個人顧客からの定期預金は、これまで高い継続率を示している。
 - ✓ 本邦における広範囲な顧客層および、大手金融機関への安全性の高い預金志向等を要因として、MUFGの預金の残高は、25年3月末時点で146兆6千億円まで増加。
 - ✓ これらの顧客預金は株主資本とともに、MUFGの総資産234兆5千億円に対し約67%を占め、MUFGにとって安定かつ低コストの調達手段となっている。
- その他の資金調達手段は、主に短期借入、長期債発行による調達。
 - ✓ 短期借入は、コールマネーや売渡手形、レポ取引等。
 - ✓ 長期債については、主にシニア社債や劣後債発行による調達。

定期預金・譲渡性預金、借入金・社債の期間構成

平成25年3月末時点

(単位:億円)	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
定期預金・譲渡性預金	560,603	88,782	14,013	979	897	23
借入金	84,047	9,667	3,739	3,205	3,570	3,354
社債	15,401	14,215	10,372	5,076	12,963	7,740
合計	660,051	112,664	28,123	9,260	17,430	11,117

- (注) 1. 25年3月末時点での、顧客預金のうち定期預金および譲渡性預金、借入金および社債による調達の期間構成(返済・償還期限)を示したものです。
2. 社債には短期社債4,622億円が含まれております。また社債のうち2兆6,266億円は劣後債です。
3. 借入金・社債のうち、返済・償還期限の定めのない借入金・社債につきましては、「10年超」にしております。